

やすだ のぼる  
**安田 登**  
 能楽師（下掛宝生流：ワキ方）  
 寺子屋 講師 （阿弥陀寺）  
 こどもおばけ合宿 講師 //

主著に『論語』『あわいの時代』『あわいの時代の『論語』ヒューマン2.0』  
 『能 650年続いた仕掛けとは』他多数。

# こままたとき 親鸞の聖人



イラスト 中川 学

## 国王、国を捨て菩薩になる

きましよう。  
 最初にその文章を挙げておきます。二行でペアの四句で見えていきます。

前回から親鸞聖人の「正信偈」について書いています。「正信偈」とは親鸞聖人が『教行信証』という著書の中に書かれた偈文（詩）です。皆さんもお寺に行く

と、よく一緒に唱えますので「聞いたこと、ある」という方も多いのではないのでしょうか。前回は最初の「帰命無量寿如来／南無不可思議光」のお話をしました。今回はその続きを見ていきます。

- ①法蔵菩薩因位時 在世自在王仏所
  - ②親見諸仏浄土因 国土人天之善悪
  - ③建立無上殊勝願 超発希有大弘誓
  - ④五劫思惟之摂受 重誓名声聞十方
- この内容をざっくりお話ししておきます。
- ①阿弥陀さまは仏さまになる前は法蔵菩薩という名で、世自在王仏という仏さまのもとで修業をされていた。
  - ②そして、さまざまな仏さまが作られた、さまざまな浄土と、そこに住む人たちの善悪をすべてご覧になった。
  - ③そして「私はこれ以上の浄土はない」という新たな浄土を作ろうという願いを立てられた。
  - ④びっくりするほど長い時間、考えに考えに考え抜いて、すべての人にこの浄土のことを知ってもらおうとさなる誓いも立てられた。では、一句一句、もう少し詳しく見ていきましょう。

学者でもなく「役者（能楽師）」です。ひとりの「読者」として読んでみたいと思っています。また、読みやすくするために以下では「敬語」は省略します。「阿弥陀さまがおっしゃった」というところを「阿弥陀さまが言った」と書きまので、怒らないでくださいね。

▼国を捨て、王位を捨て

①法蔵菩薩因位時 在世自在王仏所

最初に出てくる「法蔵菩薩」というのは阿弥陀さまが仏さまになる前の名前です。「仏」というのは悟った人、「菩薩」というのは修行する人です。阿弥陀さまが、まだ修行者だったときのお話です。

この法蔵菩薩は、さらにその前は王さまでした。その王さまが世自在王という仏さまと出会った。そして「自分も仏になつて、人々を救いたい」と思い、修行を始めました。

『無量寿経』というお経には、世自在王仏の説法に感動したこの王さまが、国を捨て、王位を捨て、そして修行者になつたと書かれています。

国を捨てたり、王位を捨てたりするのは、普通にはなかなかできません。大企業の社長や会長が、その地位や財産をすべて捨てることの百倍も千倍も、いや数万倍もすごいことです。

それも自分のためではなく、人を救うために捨てる。

SDGs(エス・ディー・ジー・ズ)というのを聞いたことがありますか。十七色の丸いバッジを付けている人を見たことがあるでしょう。

これは「持続可能な世界」を実現するための運動で、十七の目標を挙げています。ですから、バッジも十七色になっています。

十七項目で有名なのは環境問題を何とかしようというもの。スーパーやコンビニのビニール袋が有料になったのは、環境

に留意してビニールを減らそうという考えから出ました。

しかしSDGs十七の目標のトップは環境ではなく「貧困」です。貧乏で困っている人がいない世界を作ろうというのがSDGsの第一目標なのです。

世界の富の80%近くを、トップ10%の富裕層が持っているといいますが、残り90%の人たちが、世界の富の20%を分け合っているのです。しかも、世界の下の50%の人たちが分け合うことができるのは、世界の富のなんとたったの2%。

大貧民ゲームというトランプゲームがあります。が、貧困の人たちはほとんど貧乏になっていく、それが現代社会です。

もし、世界中の大企業の会長・社長、その他のお金持ちや政治家、そういう人たちが、「これではダメだ」と、貧困に苦しんでいる人を救うために、すべての資産を寄付して、地位や名誉や名声もすべて捨てたら、この

問題は一挙に解決します。なんととっても世界の富の80%近くを持つているわけですから。

でも、ちよつとそれは現実的ではないでしょ。

しかし、この王さまはそれよりもすごいことをしたのです。会社どころか、自分の治めている国を捨てたのですから。

▼苦しみのない浄土

② 観見諸仏浄土因 国土人天之善悪

すべてを捨てて修行者になつた法蔵菩薩が次にしたことは、多くの仏さまが作った「浄土」がどのようにできたのか、そしてそこに住んでいる人たちにはどのような善悪があるのかを観察したことです。

「多くの仏さま」といふと「仏さまってお釈迦さまひとりではないの」という方がいらつしゃいます。「仏」というのは「仏陀」の略で、仏陀(ブツダ)というのはお

釈迦さまが生まれたインドの言葉で「目覚めた人」という意味です。

悟りを開いた者や真理に目覚めた人を「ブツダ」といいます。昔のインドにはたくさんブツダがいて、さまざま真理、さまざま悟りがありました。

では、仏さまで「悟り」、「真理」に目覚めるというのはどういうことでしょうか。

お釈迦さまの最初の悟りは「この世の中にはさまざまな《苦しみ》が満ち溢れている」というものでした。四苦八苦という言葉を聞いたことがあるでしょうか。それがこの「さまざまな《苦しみ》」です。

生きる苦しみ、老いの苦しみ、病の苦しみ、そして死の苦しみ、すなわち「生老病死」が四苦です。この四苦に加えて：

①愛している人と別れなければならぬ苦しみ

(愛別離苦)

②憎い奴とも会わなければ

ばならない苦しみ(怨憎会苦)

③欲しいものが手に入らない苦しみ(求不得苦)

④自分の心やからだがい通りにならない苦しみ(五蘊盛苦)

この四つは生老病死の「生」、すなわち生きる苦しみでもあります。

仏教での悟り、真理というの、この四苦八苦から自由になること。苦しみのない人生を送ることです。

人類の歴史は、この四苦八苦を少しでも和らげようと努力した歴史でもあります。

病気の苦しみを和らげるために医療が発達しました。老いを遅らせるアンチエイジングも盛んです。しかし、こんなに科学が発達しても「死」を避けることはできません。また、生きる苦しみの四つもなかなか解決できません。

人が集まったら、「みんな仲がいい方がいい」と

と多くの人は思っているでしょう。そこで、グループを作る際には同ような性格の人を集め、「みんな仲良くね」と決めて作るのですが、それでも少し経つと必ずといっていいほどイヤな人ができてきます。

むろん、自分が「イヤな奴」と思っている人は、相手も自分のことをそう思っている可能性が高い。

これは人間が人間である限りどうしようもないことかも知れない。

人は、悪意がなくてもウソをつきます。自分を守るため、あるいは大切な人を守るためにもウソをつく。それはこの世の根っこに「苦しみ」があるからです。

ですから、そんなものがひとつもない世界を作つて、そこで暮らせば「苦しみ」のない人生を送つて、そして「悟りを開く(成仏する)」ことができるのではと、さまざまに仏さまが考えて作つたのが、浄らかな地、

「浄土」です。多くの仏さまが作ったので、さまざま浄土があります。

法蔵菩薩は、ありとあらゆる浄土について、どの仏さまがどのように作つたか、そしてそこにはどのような人が住んでいるか、さらにそこにはどのような善悪があるかを観察されたのです。

▼万人のための浄土

③ 建立無上殊勝願 超発希有大弘誓

さまざま浄土と、そこに住む人が観察した法蔵菩薩は、多くの浄土にはひとつの欠点があることに気づきました。

それは「人を選ぶ」ということです。そこで、それまでの仏さまが誰も立てたことのない、驚くべき誓いを立てられたのです。それは：

「私の浄土には、それまで浄土に行くことができなかったような人も含めて、すべての人を迎え

入れよう」という誓いでした。どんな極悪人、どんなに弱い人。そんな人も迎え入れる浄土を作り、そこに人々を来させようという誓いを立てられたのです。

▼知ってもらふ方法

④ 五劫思惟之摂受 重誓名声聞十方

そんな素晴らしい浄土の建設を企画しましたが、しかしそれだけではダメです。人々がそれを知らなければ、この浄土に来てくれません。どうしたら人が来てくれるか。それを法蔵菩薩は「五劫」という驚くべき長い時間をかけて考えたのです。私たちが救う浄土を知らせるために、そんなに長く考えて下さつた。ありがたいです。

「商品」も、もともとは人々の生活を楽にするため、よくするために考えられたものです。だから人に知らせる宣伝が必要なのです。 《続く》